番五門

有

に闘する條例制を登置及びそのない。

例事務執行 物事務執行

回

そ関系の側が

被服について ボンプ修繕について

四

月二十二日

日

手數料を添い、縣知事

有者は

宛、

狂犬病

予防法第四

條

稅

の申告はしなけ

定

例

町

議

會

合に

四

月

H

可

四

月二十

日

昭

和二十

七

年

可

動

車

ボン

消防委員

員 0

會

要 エ 五 月 末 日 式會社に落札、三十九万

事万築

株五三

0

錄

登度

町

議

会

事

務

局

月一

一十八日)

敷地林省一年

をして無償貸付するの一 八四坪八合川原町字元町一二三

△五

部改正原

の田「

件稅條

可例

四

月

日

說動

説明並入札について動車ボンプ艤装仕様

しなけ す。この登

ればなりません。

秘

目

はなりません。用金錄は毎年度更新

會

犬の登録することが必要で

總四

務財

脱察について

印鑑を持つて來て下紙は役場にあります

つて來て下さい。

から、

いて次号掲載

00

HI

議

会

0

動

か

長小

內川

唯久

六市

庭内藤太郎 F

水道

擴

張

I.

事

計画

につ

术

1

操

法

**回** 

回

0) 町

回

申告は、円町民税の中告

四

月

中

加保原昭

四

月十八日

その他

管外行政視察

察生に常

つ任

い委

で具會

表彰式、講評、

ŋ

V

すが、

期

訓

示

から、

急ぎ申告して下さ

技

金を五折川原東を加切の世の代表を一貫の一番を一貫の一番を一手の一手を一手を乗ります。

水報

利償

葉

清

隆

高

橋

元

重

水道常任

委員

納

期

六

月

Ξ

H

手數料

(縣收入證紙 三 百 田

紙四て

九、〇〇六

合諸 固町 定資

四

月

十六日

互臨 干

一選の件検査

立會人

管

行政視

△負



\*\*\*\*\*\*\*\* 和 発 効 記 念 日 を迎

竹 内

夫

あ

七ケ の効力が發生し、敗戦後約よ四月二十八日を期してそ にあらゆる制約から解放せは固く謹まなければなりま 國 渉る占 際社會に名譽ある 領管理の下 いよい せん。 時であると考へられますの 獨特の氣魄を打込む試練のしろ今後我々民族の持てる で、徒らに安逸を貪ること なく、 以

獨立の誇りと勇氣を念願して止みません。

前七時三十分(サイレン台

合觀閱式は、

場

執

務時

間

変

更

は生したおければ、 は生したは、 はないのでは、 はないのではないのでは、 はないのではないのでは、 はないのでは、 はないのではないのではないのでは、 はないのでは、 はないのでは、

Ŧī.

所川

原

支

圖)より、五所川原中央及

北斗グランドに於いて左

計画により、

おこなわ

n

3 訛

甘へることなく、

春

法

檢

ammunane

模

擬

習

記

而 原 順 演 左

大柏

寺本

町町

通

期

+

獨立國家さして列すること 國を學げて慶祝に堪いないを拂い、 に立ち返りましたことは民は如何に物心兩面に犠牲得、歴史的重さを持つ地今時大戰を忍ぶ時、我々國立國家として列すること 今茲に思ひを新たにし、 我々の生活が安定したも 國内諸情勢は によつて直ち 様の骨隨に徹した事であり たこさか、實に戰慄を覺い 戻すことは出來ない 大きな損失を蒙つ 未だにその疲弊を 五. 五 IIIMINGIAMIA 檢

再檢 雨 月 月 查 查 期 十日 六五四 H 日日日, 延

柳新更榮

0

五

月

+

Ħ.

日

屋町

•

大町

通

北斗グラ

分

列

行

進

午前

布屋町

午

後

生

町町 街町 下午午一 前前 前日 月

川謙元田

午午午一

後後後日

人員、

装、

姿勢点檢

機械器具の点検

觀

閱

(布屋町鱼。

放

水は花火合圖による

端谷 四 町町日

雌立を第一とし、 るこどで思 その に今日以後我々は經 苦しみに喘ぎつい 様も 陸奧印刷株式会社 庶 務 います。 課 廣 努力を 濟ふことに努め、 神を体し、 切に推進し、 ることなく、 世帶數

みその天職を大 で 質 関 健の精

精

五

所

III

原地

区二

町

八

ケ

自己の力を養

防

团

定期

國際信念を

北津軽郡五所川原町 報 役 場 我が 口 HJ' 0 人

五所川原町

、四月末日現在) 二、六〇八 口

二、五八二 0五

平井町 午前 平井 新大東 則利則 午午午前前前 月 十六 柏幾 錦寺旭 原島 日 町町町 町町 午午

午午午 後後後 後後 下平井町 の火焚場と 家 にいい の周邊は 午 日前 数

よう願い たしましよう 何時もきれ 島町 いまな除

午后ませんで申告しないと 一 御留意下さい。 ませんから ラ

扶養

1 後、其の他の理由で、低い妊娠中、又は分娩のではない。 予豚 防 15 で分し、娩れの 0

五月十六日午 連 合観 閱 式 執

執月 後 五 變日史よ す h 時十 分よ 1 祀 の通 でり

但 为五. 午午 し土曜日は正 午迄

2

至急お届けり

しは有

て謄者

下本で

い添出

火 0 充 用 分 心 御 注 火 意 0 兀 1= 3 11 V

資產 の申告さ、 0) 税 申 公 民館行

告をいたしました 申告と償却資産 償 0 か資 五 月 事予 +

限後でも受付けま 四月三十日限 りで 二十 四 日 H 晚

の確定申告をしなかつた人町民税の申告は、所得税 未提出の方は収 ければなり h △ 本 古 學 會 会 本 本 學 會 △舎宗 △日 道教 曜 話 研究 講 學 會座 校 前日曜日八日九曜日午日日午時日晚後晚 後

0 昭 和二 一十六年 度 町 稅 徴 收 状 况

計 稅 稅 稅 賦課調定額 徵收済額 單三 納 額 Ŧ-円現 納入率 在

七、六五〇 九、八〇二 一、五五四 四、四六〇 六、一〇六 一、一六 三、一九〇 三、六九六 三九 六二% 五八%

七 位三 白

1,

羽

根

募

金

1=

協

すご

日 (

三十

日

昭

和

年

度

0

分資和

の産二徴税十

T

1

定資

產

稅

0

## 昭和27年度五所川原町予算

## 般 會計)

歲

入

項目 豫算額 1 町 稅 21-211-047 9.493.547 町 足 秘 固定資產稅 10-174-000 480-000 自轉車稅 車 稅 61.500 794.000 電氣ガス税 告 税 100.000 接客人 84.000 稅 犬 税 24.000 2 地方 財政 平衡交付金 9.500.nn0 公営 企業 及財産收入 37-230 4使用料及 624-500 5 国庫支出金 2-577-320

6縣支出金 7 寄 附 金 8 繰 越 金

9 雜 收入 10 町 債

備

考

合

から

あ で 三十

歲 入 合 計

歲

1-203-500 1会 議 費 2役場費 10-280-546 役場職員費 7-301-976 2.050.000 繕 費 公平委員会費 47-300 固定資產評價審查委員会費 31-800

3 警察消防費 8-540-935 会。職 費 6.688.850

14.000

1-838-075

2-066-640

4-625-181

1-929-984

1.521.764

783 • 987

389 • 450

6-166-358

1-716-720

724-360

534-360

90.000

100.000

52-030

271-470

432-620

816-624

136-000

100-000

400.000

180 • 624

8-000-000

1-000-000

二十"十

七

十九

2-628-669

消防署費 消防團費

4 土 木 費 5 教育費 小学校 費

中学校 公民館 碧 公会堂 費

6 社会労働施設費 7 保健衛生費

8 產業経済費 農業委員会費 農業振興費 商工振興費

9財產費 10 統 計 費 费 11 選 挙 12 公 债 費

144-000

100

1-000

8-730-446

5-700-000

48-525-643

849-470

一十八

+

四

+

九

出

13 諸 支出金 公金取扱金 御 程 曹 金 经 巷 諸 費

14 繰上充用金 15 予 備 金

48-525-643 歲 出 合 計

## (特 别 会

會計別27年度予算額

水道事業費 19-691-014 都市計画事業費 7-446-880 国民健康保險事業費

事業 勘定 9-956-000 診 勘 定 11-768-700

+

日でのおれ基化の心固昭れ資 た産昭この和 まあ固 りが準を適が定和 でる定でででで ま評が岡正み資二す価改るを、産十 の和 ·價十 基七 準年が度 改の 正固

定十準分で こ価衡価かる

四、 異 に異 0 申 0) 立 異に 議 0 申て T

籍

0

窓

一回

月

中

0

ح

٤

表

1 配 他の 給 市 0 町 村 知 6 轉出 2

n 安 龍 八 正 變 吉 出 木 小 山文馬雄村藏崎郎 及 長 長 三 二 和 女 令 女 安 男 龍 女 富 女 彦 世 江

中平井町 錦 新 下平井町 兀

"+"+

五

から、わらいの 願 御 充分御 力 項 下さ につ い理明 言は、すで いて、 ます 解 のたし してあ もう が、 納 さ定

る定資 算定 稅 な額し度輕額のい第

日令障問で以書の合や 度願定 產 調出て、務に 

3 録所のけた せな他のささ所る つ布 

所一ボ出他消理役をし受翌お通退当録 又洩ン來)費由場變でら月出帳の月店 はれ券まな者(に更下れか下に申分へ 役がをせくの業おささまらさ記出受配 場あ配ん登代者届れいけでいるを配給 貞 秀 利

友 伊萨木 世藤一田藏村雄 村 四 清男 正男 春女 隱女 春男 四長 二 一男壽男 代 志 子 子 基 佳 子

下平井町 布 田 上平井町 本 田 祭 布 柳 屋町 屋 町 町 町 町 行 直 章 誠 貢 政 豐 祐 孝 E 竹大 葛 淺 齊 利一前吉 內夫谷治西雄 油一 郎 藤 一長 雅男亮女 男 美 之 子 子 子 祭 久

下平井町 111 田 田 敷 田 旭 本 新 柳 端 宫 井町 町 町 田丁 町 町 実 長 舱 健 栄

政▲死 盂 藤 木秋齋佐 小三成 I 中 田桐良三藤ミサ 野郎 田七藤藏 村逸 川允 井 村庭藤々雄 美 木 長亡 ミサヲ(四二) 長 長 三 二 る女 兼男 清女 和男 広女 大郎(三) 市 子 雄 T

元錦下幾 鎌 錦東錦 III 布 本 平井町 端 町町 町 al al al al

I 以後の分) 運

四

一十二日 一十六日 日 日日 日 日 H 本新田田祭元更更敷敷旭旭東大大寺川岩柳下中平上柏幾 平平井井原島 生生島島 端木 

より無が基本、 海基盤の強化確立 は、國民全体が一 段本の蓄積に努力 たが、 が講 力に蓄 から 國和 は條 いて であ 名質強よ + 開動 酸す に確立を聞るこ まるで る。 12 効 居ります 周月一日 致協力、 中に 獨伴 間でし

鄉 H

、進の一何分御協力をお願いします。 お合 曾を がありましたら御寄稿下さい。 に各種 全町民の方々も町政に対し質疑事項 し今月は諸行事上十四日発行日とし 会を発刊する運びとなりました。 には注意致しましょう。 をが今暫らく寒暖の差が甚だしく氣 快よい南風が頬をななりました。 快よい 南風が頬をな ンと映えている。 ンと映えている。 すべての木々は を頂き感謝砂

六月分は告知板で通知致します よ 乗 岩 大 水 川 て水な川 稅 机貯蓄組 堤防に h \$ うに致し 合を しま 投

△农 き載籍の届出 に留 か牛 つのき、 届 ら届 た出 に本内質

る特環たじと ため、婦人の守動政野番の實際 に動し 促 戶 籍 0 の貯蓄組合及び 知 貯蓄組 6 2